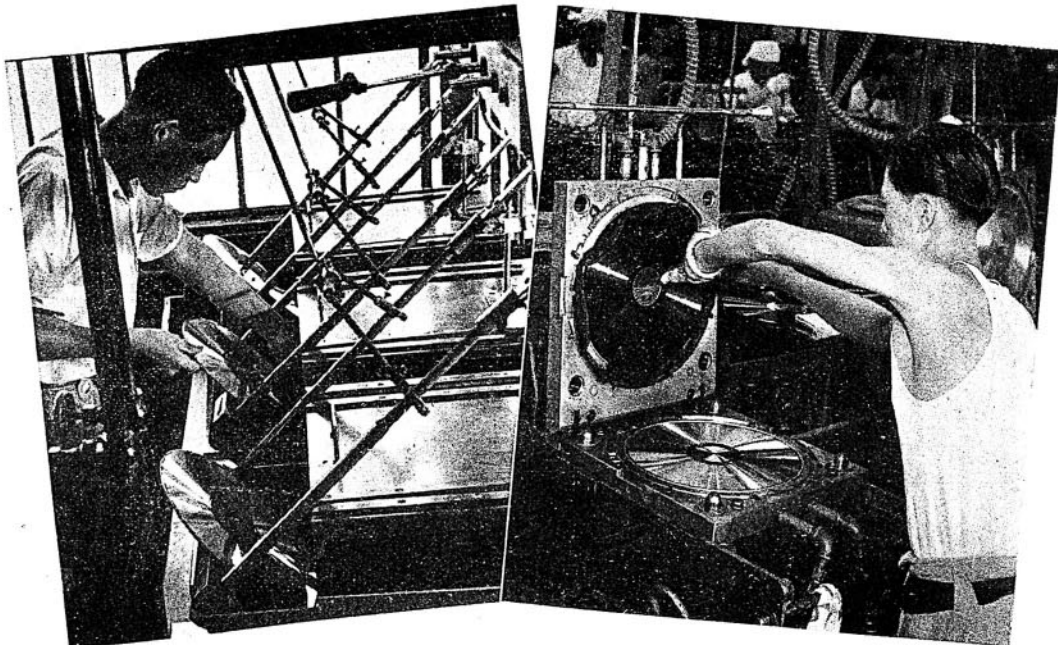


日本ビクター蓄音器株式会社

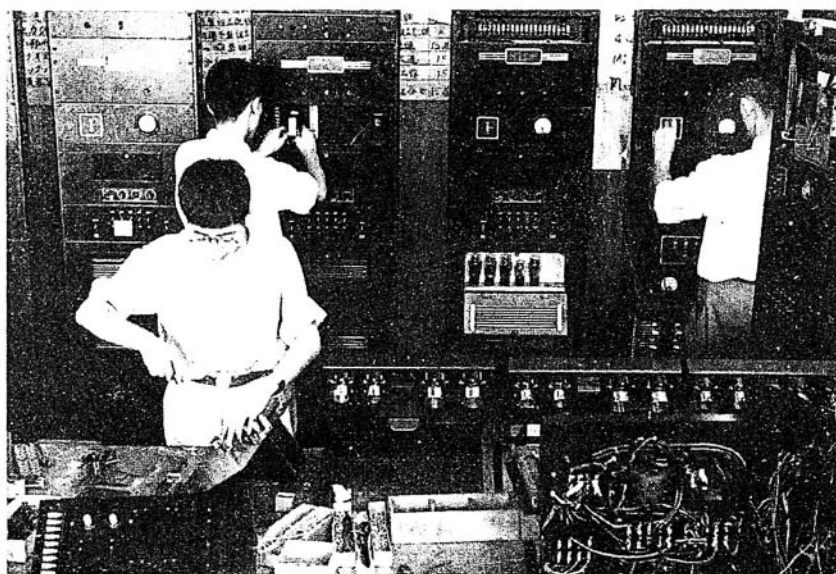
東京芝浦電気株式会社の傘下に属する日本ビクター蓄音器株式会社の歴史を辿つて見ると、創業は昭和2年9月13日資本金200萬圓を以てアメリカ・キヤムデンに本據を有するVictor Talking Machine Co., 即ち現在のRCA Manufacturing Co., Inc. の子会社として誕生し、次いで昭和4年1月三菱及び住友の二財閥を出資者中に加へ、茲に設立當初の理想たりし日米合弁が實現した。かくて日米共同出資の下に翌5年12月には資本金は400萬圓に、更に9年10月には500萬圓に増資された。越えて昭和11年中頃、日本産業株式会社によつて従來の總資本の買収交渉成立し、翌12年7月1日より新たに日産の手によつて經營されることになり、更に間もなく従來の倍額1,000萬圓に増資されたが、時恰も日支事變の勃發を見、日産が國策に基き滿洲重工業の開發に轉化し移駐するに及び、同年12月、

改めて現在の東京芝浦電気株式会社マツダ支社（當時の東京電気株式会社）の傘下に移され、今日に至つたのである。即ち創業以來既に13年餘、その間資本金額より見ても5倍に激増し、従つてそれに伴つて經營、組織、施設、共に格段の進歩を示したのみならず、従來の外國資本より脱し、昭和12年末を境として名實共に純然たる日本の事業となり、加ふるに今日日本に於ける電気工業の綜合的資本體系に入ることによつて一層盤石の基礎を築くに至つた。

現在日本ビクターの生産品目はレコード、ラジオ受信機、各種電気音響機器並に装置、其の他に亘つて居り、蓄音器の製造販賣禁止による代用品の研究、並に輸出向けとしての蓄音器及びラジオ受信機をも製作し、更に最近はテレビジョン受像機の製作にも着手しつある。



圓盤製造狀況



擴聲裝置の製作

レコード及び蓄音器に関しては斯界最古の歴史と卓越せる技術を有することは周知の事實であり、その上、内外第一流の藝術家を擁して多年斯界に雄飛し來つたが、その間我國文化の發達に多大の貢獻をなしたることは言を俟たない所であり、且又幾多の愛國歌を世に送つて銃後の厚生運動に邁進し「音樂報國」に大いなる努力を竭しつゝある。

無線關係に於ても、世界電氣工業界の權威たるRCA並に大マツダの技術を攝取しつゝその製品の質と種類に於て「日本ビクターは東洋唯一の最高の音響工業會社なり」との自覺を持ち、細心の注意と最大の努力とを以て製作に當つてゐる。數年來の懸案たるテレビジョンも眞摯なる無線科學への探究が漸く報ひられんとし商品化にまで到つてゐる。

以上は孰れも近代的施設の完備せる横濱本社工場に於て生産され、各地の營業所、卸元、全國の特約小賣店に配給され、一部製品は直接官廳方面へ納入されてゐる。

この他、昨年創設された滿洲蓄音器株式會

社及び勝利唱機股份有限公司（所謂上海ビクター）は共に日本ビクターの子會社であり、前者は全滿洲を、後者は北支、中支及び南支を販賣區域として既に營業及び生産の緒に就き、着々大陸開拓の歩を進めつゝある。



ビクター AW-73 全波受信機

今や新東亞建設のため國を擧げての聖戰は既に四ヶ年に垂んとし、國家産業陣につらなるもの愈々全機能を發揮して覇業達成を翼賛すべき時、日本ビクターは國民文化向上のため、將又外貨獲得の勇士として海外市場に對し積極的販路擴張を目指し大活躍すべく、幾多の障害を克服しつゝ日夜その技術的發展と生産力擴充に一致協力精進を續けてゐる。